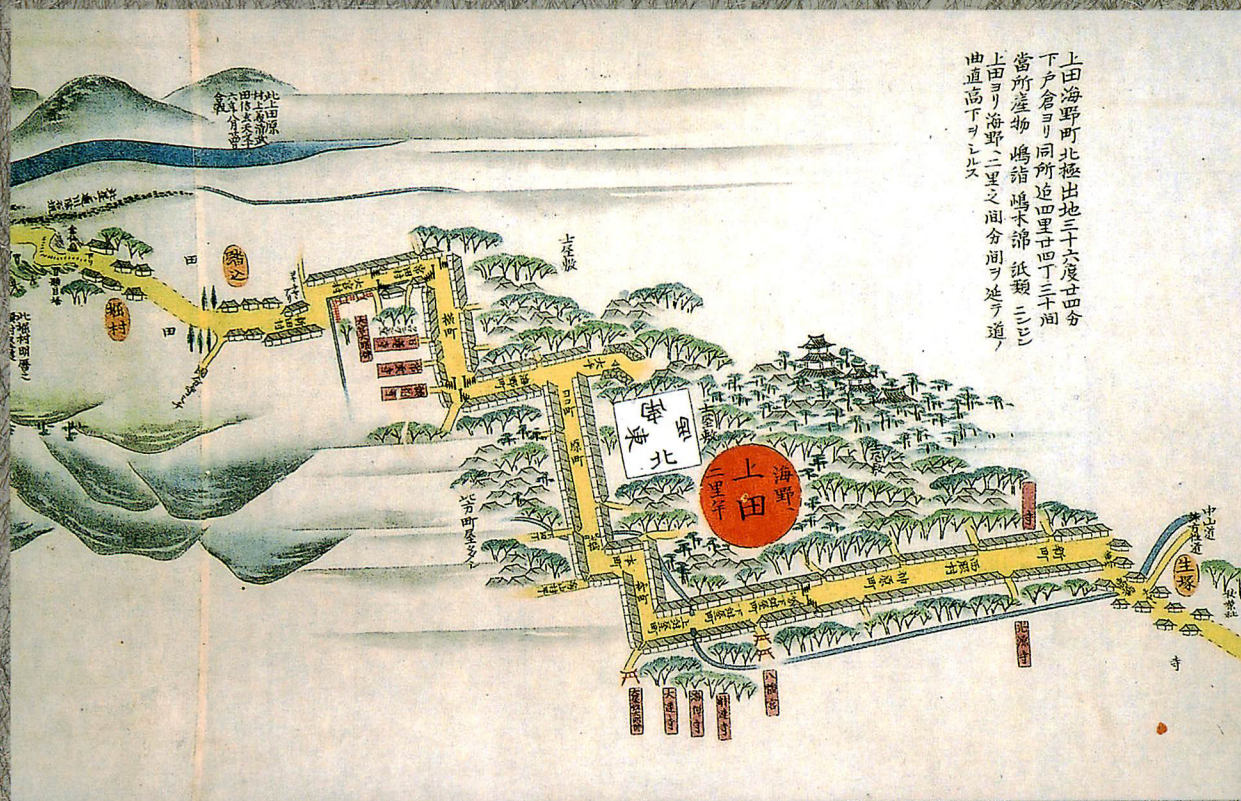


近世の交通と上田宿



目次

口 絵

刊行のことば

監修のことば

まえがき

凡 例

上田市誌刊行会長 上田市長 母袋 創一
東京大学教授 文学博士 佐藤 信

第一章 上田の道と施設

第一節 主要な道

北国街道 保福寺道 上州道 別所道 祢津道

第二節 北国街道

一 成立と道筋

江戸幕府の五街道整備 佐渡路の一つ北国街道 路線の確定経過 北国街道の開設年代

二 街道の施設と整備

宿場 一里塚 並木 口留番所

三 通行した人や物

16

11

8

8

3

参勤交代の大名 佐渡の金銀と蠟荷 商い荷物

第三節 保福寺道

一 道筋と成立

名称と道筋 路線の成立

18

二 浦野宿

宿の機構 宿の助郷 伝馬賃銭の推移と刎銭 市場立て

20

三 通行した人や物

大名の通行 松本御城米の運搬 その他の物資の輸送

26

第二章 上田宿

第一節 上田宿の構成と機能

一 伝馬宿としての上田宿

伝馬宿の成立期 上田宿の範囲

33

二 上田宿の構成

町役人 軒数と人口の推移

34

三 伝馬負担

上田宿の伝馬日数と軒数 間口からみた伝馬日数 面積からみた伝馬日数 駄賃銭の推移

37

四 上田宿の助人馬

助人馬の負担率 助人馬の勤め実態 助人馬の請負

42

45

45

- 45

- 51

- 51

- 56

- 60

63

- 63

- 65

- 67

69

72

- 72

	江戸・大坂等での出開帳	通行と宿泊の状況	途中開帳
(2)	戸隠権現		
	江戸出開帳	上田宿の寄進人馬	
	旅籠屋		
第三節	旅籠屋		
一	旅籠屋のたたずまい		
	菱屋清兵衛の店先	菱屋清兵衛の間取り	真田屋・井筒屋・使者宿など
二	旅籠屋の取極		
	日暮れての一宿とする	旅人の夜間外出禁止	旅籠屋での夜間商売
	旅籠屋の泊まり賃		
三	旅人たち あれこれ		
	上田宿の宿泊旅人数	宿泊する旅人たち	善光寺詣の旅人たち
	宿場旅籠屋の経営難		旅籠屋と芸者・遊女
			旅籠屋と宿引き
第三章	中山道への助郷		
第一節	定助郷等		
一	和田・長窪宿		
	伝馬と助郷の制度化	和田・長窪宿の助郷	道造り掃除の村々
			橋造り組合
二	勤めの実態		
(1)	長窪宿		
	助郷勤め人馬の割合	町屋村の勤めの状況	
(2)	和田宿		

助郷人馬数の推移 安政五年の勤め状況	103
三 定助郷免除嘆願と休役・代助郷	103
(1) 嘆願経過	103
助郷帳にみる嘆願 延享四年以降では 平井寺村の嘆願と成果	106
(2) 代助郷と勤めの状況	106
代助郷の申し付け 御嶽堂村の代助郷 代助郷勤めの事例	109
第二節 当分加助郷	109
一 和田・長窪宿へ	109
助郷の拡大 和田・長窪宿の当分助郷 勤めの事例	113
二 佐久郡の宿々へ	113
(1) 加助郷への攻勢	113
頭越えに埴科・更級郡へ 田中・国分寺組へ 塩尻組へも	115
(2) 宿場の困窮と増・代助郷	115
疲弊する宿場 沓掛宿の場合 小田井宿の場合 望月宿の場合 追分宿の場合 勤めの事例	119
三 和宮の下向	119
(1) 大通行の継ぎ立て	119
特別な大通行 新当分助郷 勤めの事例	122
(2) 通行に伴う領民負担	122
お金と物 城と村の見回り 長柄の者とお供人	125
四 免除嘆願	125
切なる願い	126
(1) 矢澤領にみる事例	126

第四章 中馬と通船

(2) 村柄見分	出府と滞在	嘆願費用
塩尻組にみる事例		
上田城付きの村々	江戸留守居役等の働き	御付札と請書

129

第一節 中馬・間道と宿場との出入り

..... 137

一 中馬の発達

..... 137

(1) 明和の裁許

..... 137

中馬 中馬稼ぎ村の見分 明和元年の裁許

(2) 糸魚川・松本からの荷物

..... 140

尾州の岡船 糸魚川からの物品

二 間道・直路

..... 143

(1) 大笹街道

..... 143

奥信濃から上州へ 慶安三年の裁許

(2) 武石道

..... 145

古くからの間道 弘化の出入り

第二節 通船と橋・渡し

..... 148

一 千曲川通船

..... 148

再三の計画 反対理由

二 橋と渡し

..... 151

(1)	加賀川……………	151
	橋の架け替えと瀬越人足 架け替え工事と藩役人	
(2)	千曲川……………	154
①	諏訪部……………	154
	橋の架け替え人足 船の大きさと船頭給 みご・わら縄と松明	
②	諏訪形……………	158
	諏訪形村での旅人宿泊一件 船渡し の存在	
③	大屋……………	159
	大屋橋の経緯 山辺忠七の刎橋と落橋	
第五章 庶民の旅		
第一節	お伊勢参り……………	165
一	参宮者……………	165
	御師と伊勢宮 同行者数 年齢 上田宿からの参詣者	
二	出立日と日数……………	169
	出立日 所要日数	
三	行程と費用……………	170
	コースと日程の事例 費用はどのくらい	
第二節	旅と病と生・死……………	177
一	行き倒れの様相と対応……………	177

行き倒れ	常陸国才丸村七右衛門の死	父親の死と残された子	流浪者の孤独な死
二 宿々村々継ぎ送り	歩けないが帰りたい	奥州河内村の松次郎一人旅	帰郷がかなわなかった大五郎
三 旅人への合力	上塩尻村での事例	行き倒れどきの費用	
執筆分担			
あとがき			
参考文献			
上田市誌の編さん組織			

表紙

裏表紙

北国街道 上田宿周辺絵図（鈴木魚都里^{なつり}作『東都道中分間^{ぶんげん}絵図』部分、上越市立高田図書館蔵）

「横町」・「海野町」・「原町」・「柳町」などの名が見える。
『東都道中分間絵図』は、越後高田呉服町^{ごかく}から江戸日本橋までを描いた道中図である。作者は高田藩士の鈴木魚都里で、文化七年（二八一〇）六月に作成されている

印籠

蒔絵^{まきえ}で萩の花を表した見事な作品。六代藩主松平忠優^{ただまさ}（忠固^{ただ}）の遺品（上田市立博物館）

上田市誌 歴史編(8)

近世の交通と上田宿

発行 平成十五年十月一日

編集者 上田市誌編さん委員会

発行者 上田市

上田市誌刊行会

上田市大手一―一―一六

電話 〇二六八―三―四一〇〇

印刷所 信毎書籍印刷株式会社

長野市西和田四七〇